



# くすのき



学校のシンボル  
くすの木

令和8年1月30日  
さいたま市立土合小学校

## 「やる気スイッチ」

校長 日比 圭都



日本列島に寒波が押し寄せ、外に出ると顔が痛い季節となりました。そんな中、先日、朝の挨拶運動に、土合中学校生徒会の先輩方が参加してくれました。中学生が門に立つと、小学生の挨拶の声も一段と明るくなり、よい刺激をいただきました。挨拶は、強制されてするものではなく、自然なやり取りだからこそ心地よいものなのだと感じました。

さて、子どもたちは今、学習や生活のまとめに入る時期です。「なかなかやる気にならない」「勉強しなさいと言う側もしんどい」という保護者の方の声を耳にすることがあります。そこで今回は、家庭と学校が一緒にできる“やる気を引き出す関わり方”をいくつか紹介します。

### 1. 「できたところ」を具体的に伝える

努力や成長を認められると、子どもは前向きになります。

- 「字が丁寧だね」より  
→ 「“止め”と“はね”が昨日よりきれいだね」
- 「ちゃんとやったね」より  
→ 「自分から10分間集中できたね」

結果より過程をほめることが、自己効力感を育てます。

### 2. やることを“見える化”する

やる気が出ない理由の一つに「何から始めればよいかわからない」ことがあります。

- 「宿題全部」ではなく  
→ 「①漢字3ページ ②計算プリント1枚」
- 「15分集中→5分休憩」のように時間を区切る

見通しがもてると、子どもは安心して取りかかれます。

### 3. 選択する場面をつくる

選択は主体性とやる気を育てます。

- 家庭学習の時間帯を選ぶ
- 調べ学習の方法を選ぶ

「自分で決めた」という感覚が意欲の源となります。

### 4. 失敗に“安心”で寄り添う

失敗を責められると、挑戦を避けてしまいます。

- 「どうしてできないの？」ではなく、  
→ 「ここまでよく頑張ったね。どこが難しかった？」

テストの見直しでも、答えではなく考え方の過程を一緒に振り返ることが大切です。

### 5. 大人の姿勢が子どもの意欲をつくる

子どもは大人の表情や雰囲気をよく感じ取ります。

- 焦りは子どもに不安を与える→「今日はここまでできれば十分だよ」と安心を示す
- 「どうせできないでしょ？」ではなく→「やってみたらできるかもよ？」と前向きな声かけをする

大人の落ち着いた関わりが、子どもの心の安定につながります。

私自身も子育て中、そうしてはイケナイと思ってもつい、口うるさく言ってしまったこともありましたが、無意味だったと実感しています。

子どもたちの“やる気スイッチ”は、大人の強制ではなく子ども自身が押すものです。ただし、その場所を見つける手助けは、家庭と学校の温かな関わりによって大きく変わります。年度末に向けて、子どもたちの小さな努力と挑戦を大切にしながら、ともに成長を支えていきたいと思えます。今後とも、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。